



尾張旭ロータリークラブ

Weekly

「例会は親睦なり、深めよう親睦！」

・会長 井田 武憲
 ・幹事 桜井 雅博
 ・会報 占橋 裕志
 ・事務局 尾張旭市商工会館 TEL 0561-54-1263 FAX 0561-54-8945
 E-mail : owariasahi@mtekihohe.ne.jp
 URL : http://www.owariasahi-rc.jp/

ふれあい、思いやり、そして握手

本日 第2047回 2013年3月 1日(金) No.1937

本日のプログラム Today's Program

点 鐘

ロータリーソング「君が代」・「奉仕の理想」

卓話者: 森井 晴生君

演 題: 「私の元なる事々」

前 回 第2046回 2013年2月22日(金) 記 録

- 斉 唱 : 「四つのテスト」
- 出席者 : 会員28名中21名出席 出席率75.00%
前々回補正出席率は2月9日分 100%

会長あいさつ 井田 武憲

2月17日(日)尾張旭市立本地原小学校開校60周年記念式典・懇親会が新池交流館ふらっとにて市長様はじめ320名参加の中、開催されました。本地原小学校は、開拓地、本地ヶ原に昭和29年1月に旭小学校から分校独立して東春日井郡旭町立本地原小学校になり、児童数127名、6クラスよりスタートしました。小生は昭和24年4月に渋川小学校へ入学し、4年生から本地原小学校へ転校しました。ちなみに、同級生は男子11名、女子7名計18名でした。それは、昭和26年3月までは、当区には学校がなく、東部の児童は旭小学校に西部は渋川小学校にそれぞれ通学していたためです。当時は、まだ旧陸軍演習場跡のため兵舎を改造した教室を利用して勉強したのを覚えています。それに学校給食も始まっておらず、弁当持参でしたが、日々の生活が厳しく大変な時代でした。

時を経て現在では、市第1位のマンモス校になり発展してきました。終わりに第2回卒業生および開校60周年実行委員として感じたことは、これだけ多数のかたがたの参加を得たことは、

地域がより強い絆で結ばれ地域をこよなく愛し、学校を通して子どもたちをより育くみたいという気持ちがひとと伝わってきたことです。母校本地原小学校のますますの発展を祈念いたします。

幹事報告

- ・3/1 ロータリーレートが92円になります。
- ・6/1 より愛知県陶磁資料館が陶磁美術館に変わり愛称とマスコットキャラクターの募集の案内が届きました。全員に配付させていただきましたので、応募をお願いいたします。
- ・例会変更のお知らせ：別紙。

ニコボックス

- つたない旅の話をさせていただきます。 箕輪 良孝君
- 本日卓話を担当いたします。どうぞよろしく 加藤 清久君
- 3分間スピーチです。よろしく 高島 昇君
- 卓話を楽しみにしています。 浅野 善吉君
- 箕輪さん、清久さんの卓話を楽しみに 木村玄次郎君

識字率向上・OFDY月間

	3月 8日 (金)	3月15日 (金)	3月22日 (金)	3月29日 (金)
例会予定	卓話担当者：OFDY委員会 卓話者：大野 良之委員長 演 題：「OFDY委員会として今後の活動例等について」	卓話担当者：仲澤 昌容君 卓話者：愛知県立大学・名古屋造形大学 非常勤講師 NPO法人やきもの文化と芸術振興協会理事長 浅田員由様 演 題：「瀬戸やきもの」	卓話者：木村玄次郎君 演 題：「旭労災病院の現況と将来」	卓話者：箕輪財務委員長 演 題：「中間報告」
3分間スピーチ	谷口 伸夫君	なし	富田 晃君	小柳 和之君

○インドの旅の卓話を楽しみにしています。

舟橋 龍秀君

○箕輪さん、清久さんのインドの旅、体験談、楽しみにしています。

古橋 裕志君

○雨水も過ぎて春遠からじの感じですね。じょじょはいたミーチャンのように早くおんも(外)へ出たくなる暖かさになるといいですね。

伊豆原浩二君

卓 話

「インド仏跡を訪ねて」

箕輪 良孝



今から約2500年前、北インドで王子の身分を捨てて29歳で出家し、35歳で悟りを開き80歳までその教えの旅を続けた釈迦。その教えが弟子たちに受け継がれ仏教として各地に伝わり日本もその教えが600年ごろ伝わり今日に至っております。釈迦の生誕から入滅までのゆかりの跡が仏跡として残っております。今回その一部を旅してきました。それは北インドでありネパールであります。季節はちょうど日本の初夏の感じで爽やかでしたが、砂埃がきつく大変でもありました。

インドはインダス文明から始まりB.C1500年ころアーリア人が侵入したことに始まる国です。様々な王国が各地に存在している国でした。B.C463年釈迦が生まれ仏教が生まれました。B.C268年アショーカ王がインド全土を統一し仏教に帰依して全土を仏教国としました。

600年近く仏教はインドにおける全盛期時代でしたが、320年頃もともとあったバラモン教がヒンドゥー教に発展し次第に仏教は衰退していきます。更に1200年頃イスラム教が入りムガル帝国が成立しました。1757年イギリスの統治下になり1950年に独立し現在のインドに至っている国です。

仏教遺跡は多くありますが、八大聖地が一般的で今回そのうち四ヶ所(サールナート・クシナガラ・ルンビニ・サヘートマヘート)を旅しました。

少し寄り道をして、ヒンズー教の聖地ベナレスとガンジス川そしてムガル帝国の遺産タージマハール・クトゥプミナル等を見学してきました。

バンコク経由で首都デーリまでの飛行機は12

時間乗り継ぎ時間もあって名古屋を11時に発ってデーリのホテルに着いたのは夜中の12時(時差3時間30分)を回っていました。翌日は、旅行者も私も情報不足で現地の入国管理局に行きVISAの再手続に半日を要することから始まりました。

更に翌日はデーワリーというヒンドゥー教のお祭りの日で、加藤さんと私のベナレスで手配してあったホテルの部屋がありませんでした。何とか別のホテルが一部屋取れて眠るところは確保できました。さらにこの季節は結婚シーズンでホテルといい、レストランといいいたるところでパーティが催されておりそのお金のかけ方と規模と派手さが桁はずれで驚くばかりでした。

釈迦が生まれたルンビニ、悟りを開いた後初めて説法したサールナート、大勢の弟子たちが集まって修行したサヘートマヘート(祇園精舎)、入滅されたクシナガラと遺跡しか残っていませんがふと釈迦が姿を現わすのではないかという空気に包まれていました。

仏教発祥の地でありながら仏教徒は1%に満たないインドは、人口11億人を超え今に中国さえも追い抜く勢いで増えている国です。しかしながら身分制度が残り、教育も遅れています。貧富の差が大きく発展地上にある国です。

加藤 清久



お釈迦様の古跡を我クラブの箕輪さんに連れて行っていただき、12日間インドへ行ってきました。

お釈迦様へ妻をお預けする願いも兼ねまして。今までの人生で、最高の経験をした旅でしたが、もう一度と問われれば、体力面で限界かなと、「空気と食物」、なかなか馴染めませんでした。特に、二日目あたりから喉に違和感をおぼえ、マスクを毎日交換しましたが駄目でした。仏教遺跡は、後生の為政者により破壊され原型を留めていませんが、大きな感銘を受けました。インドは、広大な土地と人口を擁し、環境、教育、人心等、まだまだ未熟な国ですが、これから、発展する大きなエネルギーを持ち、将来、大国に成長すると思いました。祇園精舎は心の故郷、改めて仏教徒である実感も味わった旅でした。

